# 第四四八回　青葉会句会報　　令和五年八月二十四日(木)　誌上選句会

選　者　川口孤舟

投句・選句　今井紀久男　柿崎忠彦　川口孤舟　久米五郎太　熊谷國男（表記「く」）小早健介
後藤とみ子　在間千恵　佐藤忠重（表記「た」）　朱牟田恵洲　髙橋康敏
土谷堂哉　豊田穣（表記「ゆ」）　中川雅夫　西澤國護　長谷見敏（表記「び」）
福島正明　星田啓子　古川百合子　古田昇　山崎亜也　山田啓子（表記「け」）
山内天牛　渡邊盛雄

選句のみ　伊賀山そらお　梅崎哲雄（表記「くす」）　重枝孝岳　庄司龍平　髙橋清子
橋口隆　山本三恵

## 【互　選　句】　〇は選者の特選　◎は孤舟選者の選

十点　夏草の命貰ひて仏花　啓子　（紀・〇くす・〇五・た・孝・び・雅・隆・三・盛）

九点　◎青き目の丈の足らざる浴衣かな　堂哉　（忠・孤・清・康・ゆ・允・正・啓・天）
夕焼の色を流して千曲川　孤舟　（五・健・た・恵・清・堂・ゆ・允・百）

七点　校庭の蛇口みな空向けり夏　康敏　（〇そ・健・と・千・恵・啓・三）

六点　ゆく季（とき）をつくづく惜しと法師蝉　恵洲　（くす・孝・清・堂・ゆ・雅）
◎鼠花火また同じ子を襲ひけり　康敏　（孤・と・千・恵・堂・昇）
◎塩匂ふ流木焚きて夏のはて　びん　（そ・孤・く・恵・百・〇啓）

五点　遠くでの帰りねぶたの笛哀し　忠彦　（紀・くす・た・龍・雅）
冷やされしメロンの舟に匙の櫂　孤舟　（と・康・堂・三・盛）
初蝉を聞くこともなく逝きにけり　くにお　（紀・忠・隆・〇百・三）
生身魂きのふのやうに疎開談　とみ子　（紀・康・堂・び・昇）
みささぎの濠渡る風鬼やんま　康敏　（五・た・雅・び・昇）
応援団の去りしスタンド赤蜻蛉　盛雄　（康・〇堂・國・昇・天）

四点　向日葵やソフィア・ローレンの愁い顔　忠彦　（紀・健・正・〇昇）
翻る海女の蹠や秋の潮　孤舟　（くす・五・堂・三）
目玉だけ目立つ子となり休暇果つ　仝　（〇と・千・允・盛）
三尺玉天地の闇をゆるがせり　くにお　（紀・康・百・天）
木が燃える百日紅咲く並木道　ただしげ　（千・孝・ゆ・國）
◎茄子漬の色鮮やかな夕餉かな　仝　（孤・龍・國・百）
◎敗戦忌軍歌は短調多かりき　恵洲　（紀・くす・孤・健）
還らざる人々偲ぶ終戦日　ゆたか　（忠・た・正・〇隆）
最果ての領土に白し蕎麦の花　びん　（健・〇く・國・啓）
◎スコップが砂場に残る暑さかな　正明　（孤・く・國・百）
天窓の矩形の中に秋きたる　百合子　（五・と・千・啓）
連れ立って雷神風神来る猛暑　啓子　（紀・千・雅・盛）

## 三点

地歌舞伎のはねて主役は甘えん坊　けい子　（紀・と・そ・堂）
地の酒を三代で酌む良夜かな　盛雄　（紀・康・ゆ・允）
鰻来る倦まず焦らずリハビリをと　紀久男　（と・び・盛）
先輩から「止酒凌暑」の葉書来る　仝　（龍・三・盛）
　歌舞伎座納涼歌舞伎
◎納涼の若手のびのび大入りに　仝　（そ・孤・正）
杖ついてリハビリ通いの秋暑し　仝　（そ・忠・天）
日本の形に曲がる胡瓜かな　孤舟　（千・隆・び）
流木の皮剝ぎ取られ秋出水　くにお　（ゆ・雅・啓）
見送れば秋の声満つドアのそと　とみ子　（紀・清・び）
◎熱帯夜シャネル五番に着替へたし　堂哉　（孤・龍・〇正）
夏の日のきらめきを乗せ波走る　仝　（紀・た・允）
切り西瓜買う事に慣れ老夫婦　國護　（く・啓・〇三）
遠花火過去現在もまたたく間　百合子　（健・〇龍・清）
塞翁が馬と夏風邪ダイエット　昇　（紀・正・〇盛）
漆黒の闇に沈む夜百合香る　啓子　（く・〇孝・雅）
　羽化するまで最低二年
二年もの時を解（ほど）きて蜻蛉飛ぶ　仝　（紀・くす・清）
七夕や静かに消える願いのみ　けい子　（紀・忠・孝）

## 二点

悲しみの式典虚し原爆の日　忠彦　（紀・隆）
川二つ交るところ風涼し　五郎太　（紀・恵）
墓洗い木陰求めて缶コーヒー　千恵　（紀・隆）
境内に合せ膨るる踊りの輪　康敏　（そ・五）
夕間暮れ浴衣の犬の集ひをり　堂哉　（紀・康）
瀬戸夕焼け帰る漁船の波高し　ゆたか　（く・〇た）
湿暑激し文化見性強く問ひ　雅夫　（紀・啓）
　・・この暑い日々、人間文化のさとり（正誤）のあり方を問うこと激し・・
◎ゴルファーを一掃したる夕立か　國護　（紀・孤）
子も孫も外国暮らし木槿咲き　正明　（紀・健）
新盆や仏はじめて里帰り　百合子　（紀・忠）
地中海の白き館やカンナ咲く　昇　（恵・允）
秋暑し夕庭仕事夜はチェロ　亜也　（紀・龍）
祖母の里倶利伽羅峠盆の月　けい子　（紀・隆）

## 一点

グリーン車で少し幸せの帰省かな　忠彦　（國）
父母に長寿を誓ふ墓参り　仝　（紀）
願ひ書き送り火待つや京に居て　五郎太　（啓）
山肌の羅漢千体涼あらた　仝　（孝）
夏鞍馬天狗の神にも頭下げ　仝　（清）
和菓子屋の列に加わり盆用意　仝　（紀）

生かせぬか台風の巨大エネルギー　健介　（昇）
予報士の急に熱弁台風来　とみ子　（紀）
竿灯の小（ち）さき蝋燭御守りに　仝　（紀）
解体進む炎帝に焼かれつつ　千恵　（紀）
◎打ち水に風ひんやりと通り抜け　ただしげ　（孤）
晴れた空星降る夜や星祭り　仝　（龍）
雷雨去り雲の合間に虹を見る　仝　（國）
◎舌で喘ぐ犬を真似たき大暑かな　恵洲　（孤）
昼寝覚め座敷童子と目の合へり　康敏　（恵）
浮雲や白南風渡る露天風呂　堂哉　（ゆ）
誰彼の三味の音絶えて夏の逝く　仝　（紀）
見渡せば島々の山雲の峰　ゆたか　（そ）
蝉しぐれ蝉の合唱リズム有り　仝　（くす）
水うてば庭も歌うや朝体操　雅夫　（紀）
◎台風の予報にこころ時化（しけ）てをり　びん　（孤）
襟裳岬
ごめ鳴くや島山消ゆる霧襖（きりぶすま）　仝　（紀）
※ごめ→鴎の別名
ブラスバンドの早朝練習夏休み　正明　（天）
カナカナは死者の声なる黄泉からの　百合子　（び）
サーファーの曲芸のごと翻る　昇　（天）
サミットの平和の誓ひ広島忌　仝　（正）
香水の隣を避けて寿司つまむ　仝　（忠）
見上ぐれば暦違わず鰯雲　啓子　（百）
大文字下宿で一人見た日日よ　けい子　（く）
はねっこの郡上踊りは雨の中　仝　（紀）
高原にあきつ群れ飛び風渡る　亜也　（允）
初嵐かけらと云へど侮れず　仝　（紀）
終戦と言はざる気骨敗戦日　仝　（天）
冬瓜に羹（カン）と湯（タン）あり選びかね　仝　（紀）
八朔や草木㐂ぶ雨が降る　天牛　（孝）
炎昼やタクシードライバハルピン人　仝　（紀）
粛々と灯しゆく五山送り火　盛雄　（昇）
孫と子へ非戦の伝へ生身魂　仝　（紀）
身嗜み手を抜く暮らし溽暑かな　仝　（紀）

§§§§§§§§§§§§§§§§§§§§§§§§§

## 【句　評】

十点句　夏草の命貰ひて仏花　啓子

五郎太さん・・炎暑のなか草はめげずに、しかも鮮やかな色の花をつける。「命貰ひて」がなんとも上手です。

ただしげさん・・仏前に夏草の今ある命を手折り、仏様に供え、祈る。心が悼む。
隆さん・・・・仏花の夏草にさえ命を忘れない思いやり。
盛雄さん・・・折柄の植物ブーム。〝夏草の命〟がいいですね。

**九点句　青き目の丈の足らざる浴衣かな　堂哉**

孤舟選者・・・大柄の外国人の浴衣姿は愛嬌あり。
康敏さん・・・旅館の浴衣、手足が長く背の高い西洋人にはつんつるてんで、ユーモラスだ。
ゆたかさん・・ユーモラスな情景が目に浮かびます。
天牛さん・・・最近は宿谷やホテルでも外人用がありますが、自宅へ外国の友人が来られたのでしょうね‼

**夕焼の色を流して千曲川　孤舟**

ただしげさん・・千曲川に夕焼けが映り赤く染まったような川の流れが目に浮かぶ。
恵洲さん・・・中学の国語の先生に倣った藤村の千曲川旅情の歌を懐かしく思い出して。
堂哉さん・・・小諸城からの眺めを思い出しました。中七が良いですね！
ゆたかさん・・色を流してという表現が見事です。
百合子さん・・情景がありありと目に浮かびます。

**七点句　校庭の蛇口みな空向けり夏　康敏**

とみ子さん・・夏休みの光景が、よくわかります。
千恵さん・・・校庭での運動を終えて皆が蛇口を上に向けて水を飲んでいる光景が目に浮かびます。
恵洲さん・・・夏の校庭の蛇口は確かに上を向いていました。運動部の練習で、水を飲むのは毒だと誤った指導を受けて、うがいをするふりをして喉を少しだけ湿した思い出。実は毒では無く水分は補給しなくてはいけないと後年習ってかっとしたことを思い出します。
啓子さん・・・「夏休み」と題した一枚の写真のようで、どこか郷愁を覚えます。

**六点句　ゆく季（とき）をつくづく惜しと法師蝉　恵洲**

堂哉さん・・・お見事！中七
ゆたかさん・・つくつく法師とつくづく惜しむの語呂合わせが面白いです。

**鼠花火また同じ子を襲ひけり　康敏**

孤舟選者・・・鼠のように地面をクルクルと走り廻り、突然爆発したのが二度も同じ子の前だったとは。
とみ子さん・・飛び回る花火に歓声をあげて逃げる。夏休みの楽しみの一つです。
恵洲さん・・・いつも（多分一番臆病な）同じ子を襲う、というのが経験上分かります。現に、逃げるのが下手で、このような目に遭った記憶あり。
堂哉さん・・・確かにこういうことがありますね。大騒ぎの声、大人達の笑い声が聞こえます。

**塩匂ふ流木焚きて夏のはて　びん**

孤舟選者・・・星空のもとの浜辺のキャンプファイアー。
くにおさん・・浜辺で流木を焚き、塩の香のなかで「今年の夏も終わるのか」という感慨。
恵洲さん・・・夏の果ての寂しい気分が、焚かれて塩匂ふ流木でよくわかる。
啓子さん・・・夏のはては、旅路の果てでもあるでしょうか。塩匂ふ、で浜辺ということがわか

る。焚火の炎を眺めながらこの旅、はては来し方を思っている、そんな時間。
百合子さん・・夏の終わりの砂浜で海水を吸い込んだ流木を積んで焚く煙まで見えました。

## 五点句

**遠くでの帰りねぶたの笛哀し　忠彦**

ただしげさん・ねぶた祭りの笛の音が、何となく哀愁を帯びて聞こえ、祭りの終わりを感じさせる。
龍平さん・・・遠い花火　遠い太鼓　遠くからの物は　人を幻想の世界に導くのでしょうか?心射たれます。

**冷やされしメロンの舟に匙の櫂　孤舟**

康敏さん・・・お椀の船に箸の櫂♪一寸法師の替え歌みたいだが、夏の夜に美味しそうだ。
とみ子さん・・・メロンは好物ですので、このお句にうっとりします。
盛雄さん・・・俳句甲子園を彷彿させる愉しい作品。

**初蟬を聞くこともなく逝きにけり　くにお**

隆さん・・・・人はどうしても旅立つときが来る。だから今が愛おしい。
百合子さん・・抑制された心情表現に心打たれました　故人と交わした会話まで聞こえてきました。

**生身魂きのふのやうに疎開談　とみ子**

康敏さん・・・戦争体験者は殆どいなくなった。今や疎開体験者も貴重品だ。
堂哉さん・・・だんだんと生の声を聞けなくなりました。台湾だ、北鮮だと騒ぐ声に踊らされないようにしたいものです。

**みささぎの濠渡る風鬼やんま　康敏**

五郎太さん・・古代の大王オオキミの緑濃き古墳の景でしょう。鬼やんまは風格があります。
ただしげさん・陵墓の濠を渡る風に蜻蛉が乗っている。秋らしい風景が見える。

**応援団の去りしスタンド赤蜻蛉　盛雄**

康敏さん・・・空になった甲子園のアルプススタンドに舞う赤蜻蛉。選手が熱中症を起す暑さだが、秋らしさもあるのだ。
堂哉さん・・・慶応高校、おめでとう!監督さんは時の人ですね!
天牛さん・・・赤とんぼがきいていますね。さびしいですね。

## 四点句

**向日葵やソフィア・ローレンの愁い顔　忠彦**

健介さん・・・向日葵といえばソフィア・ローレンですか、発想に飛躍があり楽しいですね。ユニーク賞。
昇さん・・・・向日葵と言えば、ソフィア・ローレンの主演映画を直ぐに思い浮かべます。プロローグの向日葵の映像とテーマ曲が印象深く、ストーリーも泣けました。戦争の悲劇はもう沢山。ロシア、ウクライナの戦争終結を心より祈ります。
紀久男・・・・雪のロシア戦線で捕虜となり、救護してくれたロシア娘と一家を構えた夫(マルチェロ・マストロヤンニ)。ロシアで生きているという情報を得て捜索していた妻役のソフィア・ローレンは彼の地を訪ねるも現状を目の当たりにし、言葉を交わすことなく列車に飛び乗りロシアを去る。その数年後、元夫がミラノを訪ね再会。そこで妻は本当の別れを選択する。ロシアに戻る元夫を見送るミラノ駅、タイトルバックの広大なひまわり畑の映像は忘れがたいものです。

**翻る海女の蹠や秋の潮**　**孤舟**

堂哉さん・・・あうら　は読むのと漢字のインプットに苦労しました。海女さんは随分少なくなっているのでしょう?実演は見たことがありません。

**目玉だけ目立つ子となり休暇果つ**　**孤舟**

とみ子さん・・夏休みに成長された様子が　よくわかります。頼もしいですね。

千恵さん・・・夏休み目いっぱい外で遊んだのですね!

盛雄さん・・・夏休みも終わり、日焼けを競い合った少年時代を思い出す佳句です。

**三尺玉天地の闇をゆるがせり**　**くにお**

康敏さん・・・四年振りの花火大会だ。「三尺玉」は豪快だが、歳時記に載っていない。季語として認められるか疑問が残る。「三尺玉花火天地の闇をゆるがせり」とすれば季語問題は解決するが。

百合子さん・・天地の闇の中に佇む人々の心もゆるがします。

天牛さん・・・花火大会は闇を揺るがせますが、見てる人間の腸（はらわた）もふるわせます

紀久男・・・・八月一日はＢ２９による長岡大空襲（山本五十六の出生地）。戦後復興の記念日ともなりました。

**木が燃える百日紅咲く並木道**　**ただしげ**

千恵さん・・・週一のバスでの通院時、赤桃色の花もたわわの並木道を眺めるのが楽しみになっています。

ゆたかさん・・木が燃えるという表現が素晴らしいです。

**茄子漬の色鮮やかな夕餉かな**　**ただしげ**

孤舟選者・・・茄子漬の茄子紺の色も冴え、目で楽しみ、味で楽しむことができる。

百合子さん・・私も夏の漬物と言えば茄子漬です　鮮やかな色は錆びた釘で

**敗戦忌軍歌は短調多かりき**　**恵洲**

孤舟選者・・・軍歌は兵の士気を高揚させるため明るく勇ましいものだが、いま聴くと短調で暗く聞こえる。

**還らざる人々偲ぶ終戦日**　**ゆたか**

ただしげさん・戦争に負けた日。戦争で亡くなった人を偲び、不戦を誓う日と思える。

隆さん・・・・今夏、大阪府から「軍歴証明書」を取り寄せた。桃山中学のとき「教育招集」とあった。正義の衣を掲げ国民の人生を奪う国家の恐ろしさ。戦後、家を出たきり帰らぬ例えを「鉄砲の弾」と聞いた。戦争の残骸。

**最果ての領土に白し蕎麦の花**　**びん**

くにおさん・・「白し」という措辞が最果ての領土に対する思いが込められている。

**スコップが砂場に残る暑さかな**　**正明**

孤舟選者・・・あまりの　暑さに急遽砂場から退散。置き忘れたスコップは　触ると火傷しそうな高温だ。

くにおさん・・先程まで炎天の下で元気に遊んでいた幼子の姿が余韻として残る。

康敏さん・・・スコップとシャベルの違いはJIS規格で決められているが、それとは別に関西では子供や園芸で使う小型のものをスコップ、職人が使う大型のものをシャベルと言うようだ。関東では逆だ。従って関東人なら「お砂場にシャベル残れる暑さかな」とするところだ。

百合子さん・・少し前まで砂場で遊んでいた親子の残像が見えました。

**天窓の矩形の中に秋きたる**　**百合子**

五郎太さん・・切り取られた空に流れる雲に秋を見る。詩があります。

とみ子さん・・私の育った家の食堂にも天窓がありました。阪神震災で様変わりしましたが懐かしく思い出されます。

千恵さん・・・小さな窓からの空に何か秋の気配を感じる感性が素敵です。

**連れ立って雷神風神来る猛暑**　**啓子**

千恵さん・・・暑いだけでなく突然の豪雨やら強風やらに見舞われ雷神風神来る感じです。

**地歌舞伎のはねて主役は甘えん坊**　**けい子**

とみ子さん・・しっかり見得を切り　幕が降りると緊張がほぐれたのでしょうね。可愛い！

堂哉さん・・・衣装は脱ぎたし、ご褒美は見たし。

**地の酒を三代で酌む良夜かな**　**盛雄**

康敏さん・・・マスクをしないで会えるようになり、成年になった孫を含め、中秋名月を眺めながら三代揃って地酒を酌み交わす。今年の十五夜は九月二十五日なので一ヶ月早いが…。

ゆたかさん・・和やかなご家庭の雰囲気が伝わります。

允章さん・・・三代揃って地酒を酌み交わすことなんてめったにできる事ではありません。楽しく嬉しい酒盛りでしょう。それも良夜に！

## 三点句

**鰻来る倦まず焦らずリハビリをと**　**紀久男**

とみ子さん・・ご家族のサポートがあればこそのリハビリと思いました。

盛雄さん・・・中七の〝倦まず焦らず〟が全てと思います。好漢頑張ってください。

**先輩から「止酒凌暑」の葉書来る**　**紀久男**

龍平さん・・・私も先輩の一人かな？　でもどなた様にも酷暑の夏でした。

盛雄さん・・・的確なアドバイス、持つべきは友（先輩）

歌舞伎座納涼歌舞伎

**納涼の若手のびのび大入りに**　**紀久男**

孤舟選者・・・歌舞伎への応援歌。若手はのびのびと演じる。

**杖ついてリハビリ通いの秋暑し**　**紀久男**

天牛さん・・・リハビリ通いは悲しいものですが「杖ついて」でいっそう哀れな感じが出ています。回復を祈るのみです。

**日本の形に曲がる胡瓜かな**　**孤舟**

千恵さん・・・スーパーの通常の棚の脇などによくこういうのありますが、フードロス回避です！

隆さん・・・・真っすぐな形はニュージーランドかな。遊び心。

**流木の皮剥ぎ取られ秋出水**　**くにお**

ゆたかさん・・台風の後の無残な情景がくっきりと浮かびます。

啓子さん・・・今年は多くの地域からのこうした映像を見ました。お見舞い申し上げます。

**見送れば秋の声満つドアのそと**　**とみ子**

びんさん・・・我が見送るのは柩、野に満つるのは秋の嘆き。

**熱帯夜シャネル五番に着替へたし**　**堂哉**

孤舟選者・・・香水をまとってベッドインしたというマリリン・モンローに倣いたいほどの暑くて寝苦しい夜。

正明さん・・・天に頂いたシャネル五番の句、大胆さに驚きました。破調も、今日この頃の猛暑、許されると思います。勇気が、作る方にも選ぶ方にも必要です、多分。

**夏の日のきらめきを乗せ波走る**　國護

ただしげさん・・波が陽の光でキラキラ輝くのを中七で「きらめきを乗せ」と表現しているのが面白い。

**切り西瓜買う事に慣れ老夫婦**　國護

くにおさん・・老夫婦の穏やかな暮らしが目に浮かぶ。西瓜の玉ではたべきれない。

啓子さん・・・この句だけでご夫妻の歴史が垣間見れるようです。

三恵さん・・・子供たちがいたときは、まん丸の西瓜を切り分けていたのでしょう。日常にかすめる「寂しさの機微」が表現されていて、好きです。

**遠花火過去現在もまたたく間**　百合子

龍平さん・・・遠い花火　遠い太鼓　遠くからの物は　人を幻想の世界に導くのでしょうか?心射たれます。（四点句の「遠くから・・（忠彦）」の句も同じ感想を掲載）

**塞翁が馬と夏風邪ダイエット**　昇

盛雄さん・・・吉凶、禍福の故事を巧みに引用した現代俳句。

**漆黒の闇に沈む夜百合香る**　啓子

くにおさん・・真っ暗闇のなかで百合の香りがして来る。嗅覚により百合の存在を捉え闇夜の深さを詠んでいる。

孝岳さん・・・何も見えない真夜中の無色の世界故、百合の香だけが強烈に感じられる。作者の感性に共感します。

## 二点句

**悲しみの式典虚し原爆の日**　忠彦

隆さん・・・・原爆投下前にポツダム宣言を受諾すれば広島、長崎に投下はなかった。いつの世も為政者の賢さ、感度の良さが国民を守る。式典は狡い。

**川二つ交るところ風涼し**　五郎太

恵洲さん・・・よくわかる景。確かに一段と涼しい。

**墓洗い木陰求めて缶コーヒー**　千恵

隆さん・・・・今年は異常な猛暑。缶コーヒーが一層冷たい。

**境内に合せ膨るる踊りの輪**　康敏

五郎太さん・・はじめはためらっていた人たちが加わりいつか輪がいっぱいに広がる盆踊りの楽しい句です。

**夕間暮れ浴衣の犬の集ひをり**　堂哉

康敏さん・・・夕ぐれ、浴衣を着せられた犬の集まり。可愛いですね。おそらく小型犬でしょう。

**瀬戸夕焼け帰る漁船の波高し**　ゆたか

くにおさん・・・「波高し」に意外性を感じる。

ただしげさん・・瀬戸の夕焼け、小さい頃、瀬戸内の島の高台から見た光景を思い出す。

**ゴルファーを一掃したる夕立か**　國護

孤舟選者・・・特に雷鳴を伴う夕立は、ゴルファーにとって最も危険。

**子も孫も外国暮らし木槿咲き**　正明

紀久男・・・・ニューヨーク生まれの私の孫は中学一年。夏休みにロンドン駐在の銀行員のパパのところに行き、すっかり気に入ったようで、オックスフォードを目指す由。

**地中海の白き館やカンナ咲く**　**昇**

恵洲さん・・・屋根も壁も皆同じ色の館が並んでいる外国の街に感心した経験あり。日本の街の雑然、無秩序とは大違い。

**秋暑し夕庭仕事夜はチェロ**　**亜也**

龍平さん・・・現代的コスパの良い1日の過ごし方か。

**祖母の里倶利伽羅峠盆の月**　**けい子**

隆さん・・・・北陸三県の出張中、初めて知った思い出の地名。高速を利用したため峠は通らず。一度通ってみたい。

## 一点句

**願ひ書き送り火待つや京に居て**　**五郎太**

啓子さん・・・願いが届くよう祈りつつ、静かに送り火が点されるのを待っている。語順も手伝ってか、しんとしたこころの内が感じられます。

**打ち水に風ひんやりと通り抜け**　**ただしげ**

孤舟選者・・・打水で地面が清められ、心なしかひんやりと涼感がたちのぼる。

**晴れた空星降る夜や星祭り**　**ただしげ**

龍平さん・・・何時も星に想いを寄せる我　二回星が出てくる句は嬉しいです。

**雷雨去り雲の合間に虹を見る**　**ただしげ**

※康敏さん・・・雷雨と虹の季重なりです。

**舌で喘ぐ犬を真似たき大暑かな**　**恵洲**

孤舟選者・・・昨今の暑さは息苦しいほどで尋常ではない。

**昼寝覚め座敷童子と目の合へり**　**康敏**

恵洲さん・・・中学の国語の先生に柳田国男もならいました。昼寝覚めの一瞬、現れて消えたのでしょう。目の錯覚かも知れませんが実際に見たと取りたい。

**浮雲や白南風渡る露天風呂**　**堂哉**

ゆたかさん・・・ゆったりと露天風呂に浸かっておられる情景が目に浮かびます。

**誰彼の三味の音絶えて夏の逝く**　**堂哉**

紀久男・・・・しつこい残暑に祇園や大阪の宗右衛門町の座敷も閑古鳥のようです。

**台風の予報にこころ時化（しけ）てをり**　**びん**

孤舟選者・・・　昨今の台風は被害が大きい。来るべき台風に心配が募る。

**襟裳岬**

**ごめ鳴くや島山消ゆる霧襖（きりぶすま）**　**びん**

**※ごめ→鴎の別名**

紀久男・・・・季重なりだが、捨てがたい好句です。

※康敏さん・・・ごめ（夏）と霧襖（秋）の季重なり。

**ブラスバンドの早朝練習夏休み**　**正明**

天牛さん・・・本当に夏休みになると朝っぱらから学校の中から聞こえて来ますね。

**カナカナは死者の声なる黄泉からの**　**百合子**

びんさん・・・確かに！日暮れ時の森の奥に聞くカナカナの声は幽界よりの誘いとも思われる

**サーファーの曲芸のごと翻る**　**昇**

天牛さん・・・我々の時代はあんなことの出来る人はサーカスの人たちだけでした。

**香水の隣を避けて寿司つまむ**　**昇**

※康敏さん・・・香水と寿司の季重なり。

**見上ぐれば暦違わず鰯雲**　啓子
百合子さん・・暑い暑いと言いながら、空には秋が一足早く姿をみせていますね。

**大文字下宿で一人見た日日よ**　けい子
くにおさん・・学生時代を京都で過ごした作者の追憶か。

**終戦と言はざる気骨敗戦日**　亜也
天牛さん・・・我々の時代の人間は負け戦（まけいくさ）ですよ。強がり云っても駄目です。

■　■　■　■　■

## 【次回青葉会予定】　令和五年九月二十八日（木）13時～　於：丸紅本社4階会議室

**◇ご出席者におかれては、当季雑詠5句、ご投句のみの皆さまには原則として2句のご投句をお願い致します。**
**PC入力による清記を作成致します為、当方（星田）まで通常の方法にてお送りください。**
締切：九月二十六日　午前中。

※※※※※※※※※※※※※

## 【青　葉　会　報】

一、八月句会は、尋常ではない暑さの到来により、熱中症の危険を避ける意味もあり、句会合は取りやめ、全員ご自宅での選句会とし、ご投句数は5句までと致しました。皆さまには出句締め切りを通常よりかなり早く設定したのにも拘わらず時日をお守りいただき、郵送の方々にも遅滞なくお届けすることが出来ました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。ご投句総数は104句となり、選句数も増やし7句選と致しましたが、佳句も多くみなさま選句にはご苦労されたご様子でこうしてご報告している編集子も悩んだ末にエイやっの選句でした。結果にそのことも反映されているようで、ご覧のようにいつも以上に選句が分かれております。そうした中で啓子さん、堂哉さん、孤舟さん、康敏さんが高得点でした。

二、去る五月に天に召された川合万里子先生への追悼句を最後の頁を使って纏めさせていただきました。神の御許で微笑まれながら、懐かしくご覧になっておられることと存じます。

三、今後の青葉会開催場所及び日程が開催場所の関係から、幾分変則的な設定となりました。予定一覧をメールの方には会報と同時配信、郵送の方には同時封入によりお届け致します。この予定に就いては、開催月の句会報お届けの際、直近の句会日程を、次回青葉会予定として必ずお知らせを致しますので都度ご確認頂ければ幸いです。

四、関係者近詠は、今回までお休みいたします。

五、孤舟選者　近詠
　カクテルのもう効いてきし籐寝椅子　満天の星の潤みし蛍の夜
　百足虫這ふ数多の足を捌きつつ　船虫のすは一大事四方に散る
　蛍飛ぶ草書楷書と入り乱れ

## 【川合万里子先生を偲ぶ・・・関係者追悼句】

母川合万里子逝去・・・「森の座」九月号巻頭三席、安部眞希子（ご長女）さん吟詠掲出句。

召されゆく五月の天よさきくませ　　弔ひて日頃へ戻らな青山椒
弟と十薬の庭継ぎ守らむ　　新札を常備せし亡母花柘榴
山法師調剤室に無言の業

黄落や師と句座へ急ぎし頃憶ふ　紀久男
紅葉狩り師の添削に恐れ入る　仝
はたはたや師を見舞ひし頃想ふ　仝
師と最後の吟行紅葉且つ散る武蔵野に　仝
紫陽花や万里子先生神のもとへ　忠彦
句師からの教へ心に勿忘草　仝
白百合は万里を越えて星となる　孤舟
賛美歌でひとり旅立ち合歓の花　仝
カーネーション師は星空へ召されたり　仝
お別れは木の教会で野薔薇咲く　五郎太
吟行の思ひ出残る五月尽　仝
色々と教はりしこと百日白　仝
天の川かの地の句会亡夫（つま）参ず　とみ子
師の選のひとつ励みに星月夜　仝
・・・二句ともに、保明（亡夫）さんの気持ちで・・・

今頃は神のみもとに聖五月　康敏
夏の星比翼連理の五七五　堂哉
手ずからのビールの摘みさりげなく　仝
牡丹の咲いて散るごと逝き給う　ゆたか
五月晴れ聖女のごとき師は天上　仝
手作りのチヂミを皆に万里子逝く　隆
句を採りて採らるるときのうれしさよ　仝
歳時記と電子辞典をそばに置き　仝
ソプラノのこゑ残りたる青葉なか　仝
有難うそしてさよなら雲の峰　正明
お持たせの酒の肴や冬温し　仝
手の掛かる編集仕事夜長かな　仝
秋たかしつらつら憶ふ句と奉仕　亜也

蕺菜の真白き十字葬の庭　弘子
警笛を鳴らさぬ出棺アマリリス　仝
水無月の足元定め師を送る　仝
・・・元青葉会に所属しておられた小西弘子さんからいただきました。

令和五年九月十日

（了）